

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371600939
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会
事業所名	グループホーム 高坂苑
訪問調査日	平成20年6月2日
評価確定日	平成20年7月10日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2371600939		
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会		
事業所名	グループホーム 高坂苑		
所在地	名古屋市天白区高坂町196-1 (電話) 052-805-1220		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年6月2日	評価確定日	平成20年7月10日

【情報提供票より】(平成20年5月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年8月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~65,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年5月17日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.22 歳	最低	歳	最高	95 歳
協力医療機関名	第一なるみ病院・久方クリニック・めぐみ歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人高坂福祉会の事業の一つであるホームは、特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの建物に隣接する木造2階建ての建物である。併設のデイサービスセンターの利用者と一緒に音楽療法を行ったり、特別養護老人ホームの喫茶コーナー、居酒屋コーナーへ行くことが入居者の楽しみとなっている。緊急時対応など施設と連携がとれておりバックアップ体制が充実している。玄関や居間には週1回入居者が行なう生け花やフラワーアレンジメントの季節の花が飾られている。感染予防や口腔機能の維持・向上などのために毎食後の歯磨きと週1回訪問歯科の口腔ケアを受けている。また、地域住民の方が月に半分程度(1日4~5時間)ボランティアとして、入居者と一緒に散歩や食事の準備など手伝いに来てくれ、職員と共に支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については会議で話し合い、改善にむけることから取り組んだ。入浴については毎日いつでも入浴できるようにし、日中の門扉の施錠については、他のグループホームに見学へ行き、鍵をかけない取り組みを行なったが、職員からの要望(安全を重視)で現在は施錠している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ほとんどの職員が前回の自己評価を経験しており、今回初めて行なう職員には評価の意義とねらいについて説明し、全職員で自己評価に取り組んだ。「文章を書くのが大変だったが一人ひとりが真剣に取り組み、文字にすることで気が付くことが多く、よい見直しができた」と職員は話していた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者家族、元民生委員、元消防団長、地域包括支援センター、他のグループホーム施設長、管理者、計画作成担当者の参加のもと、2か月に1回開催している。会義では活動報告、入居者の状況、外部評価結果と改善の取組みなど報告し、意見をもらったり協力をお願いしている。職員には会義の時に報告している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来苑時に職員からコミュニケーションを図り、何でも言いやすい雰囲気づくりを心がけている。玄関に意見箱を設置している。また、苦情相談窓口や外部の相談窓口について、入居時に説明を行なっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して地域の盆踊りやバザーなどに参加している。散歩時には挨拶を交わすことで顔見知りになり、庭先に咲いている花を頂いたり、苗をホームに持って来てくれたりと交流がある。クリスマス会には近所の方にも声をかけ、入居者と一緒に楽しんだ。地域の中で買い物することで馴染みの関係になっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他にグループホーム高坂苑として、法人と職員で話し合っった独自の理念がある。自分達の家で何でも言え、安心して生活ができるように。また、地域の一員として関わりをもち、地域から愛される事業所でありたいと職員は支援している。		地域密着型サービスの意義を職員はよく理解し、地域との関わりも積極的に取り組んでいるので、これまでの理念に地域密着型サービスとしての役割、地域との支えあいについて織り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議において理念について話を行ない、意識の向上に努めている。職員は「その人本位でケアする。希望をできるだけ聞く。できるだけ個々に対応する。」など、理念を念頭に日々取り組んでいる。ホーム独自の理念を目につきやすい事務所前の壁に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の盆踊り大会やバザー、学区主催の老人会などに積極的に参加し交流を図っている。散歩時には地域の人との挨拶を心がけ、地域で買い物することで馴染みの関係になっている。近所の方から庭先に咲いているあじさいを頂いて散歩から帰宅した入居者の姿が訪問時に見られた。ホームのクリスマス会に近所の方にも声をかけ、6人の方が入居者と一緒に楽しんだ。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて行う職員には評価の意義やねらいについて説明し全職員が取り組んだ。自己評価で「文章を書くのが大変だったが、文字にすることで気が付くことが多く、よい見直しができた。」との声があった。前回の外部評価について会議で話し合い改善に向けて取り組んだ。しかし、施設については現場で働く職員からの要望で半年でまた施設することになった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、地域住民代表（元民生委員、元消防団長）、知見を有する者（地域包括支援センター、他のグループホーム施設長）、管理者、計画作成担当者の参加で2カ月に1回開催している。会議では活動報告、行事予定、外部評価結果など報告し、メンバーからいろいろな意見をいただき、より質の高いサービス提供を目指している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人高坂福祉会としてよく知ってもらっていることや、今のところ何も問題が無いので、行政への積極的な情報提供は行っていないが、市町村が行なう調査への協力や市が実施する認知症介護実践者研修、地域包括支援センターが実施する家族教室などに管理者が講師として携わり、グループホーム高坂苑のパンフレットを配布している。また、ホームを外部実習の場としても提供していることから、行政担当者の訪問もあり関わりも多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2カ月に1回、行事のスナップ写真やホームからのお知らせ（職員の異動など）を書いたグループホーム通信「メモリーズ」を配布している。入居者の様子を書いた個別ノートを作成し、家族が来苑した時にはいつでも閲覧することができる。緊急時はもちろん些細なことでもその都度電話で報告し連携を密にしている。家族アンケートにおいて「よく報告してくれる」と高い評価を得ている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、職員は家族が気軽に来苑できるような雰囲気作りを心がけ、話や相談などしやすいようにコミュニケーションを図っている。苦情相談窓口や外部の相談窓口について入居時に説明を行い、玄関には意見箱を設置している。出された意見、要望などは会議で話し合い反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員がものが言いやすい雰囲気をつくり、押しついたり、自分達で考えたことを頭ごなしに「ダメ」と言わないで、必要な時にアドバイスをしよう配慮し、働きやすい職場作りに努めている。新人職員はベテラン職員に1カ月教えてもらいながら付き添い、入居者に不安を与えないように配慮している。1人の職員が3人の入居者を担当することで、より顔馴染みのケアを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修やなごや南東部グループホーム交流会で行なう勉強会（介護技術、レクリエーション、食事など）に職員は参加しスキルアップをしている。また、法人内部での勉強会（感染対策、ベーシックマナーなど）にも交代で参加している。研修会などに参加した後は報告書に記入し、会議で報告を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が平成16年に立ち上げた、なごや南東部グループホーム交流会（緑、熱田、天白、南、瑞穂区の15カ所のグループホーム）に2カ月に1回参加し、勉強会や情報交換などサービスの質の向上につなげるよう励んでいる。また、鍵をかけないことを実践しているグループホームを訪問し、どう取り組んでいるのか見学に行ったことがある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なるべく入居前に本人、家族に来苑してもらいホーム内を見学したり、入居者と一緒にお茶を飲んで時を過ごし、少しでも馴染んでもらうよう工夫している。また、ホームから出向いての自宅調査も行なっている。併設のデイサービスセンターやショートステイの利用から入居されるケースが多い。納得を得ず入居されたケースで帰宅願望が強く入浴しなかった入居者が、職員の根気よく温かい見守りで入浴することができ、表情が穏やかになった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問時、昼食（ちらし寿司）の準備や食器拭き、盛り付けなど職員とワイワイ言いながら一緒に行っていた。職員はお寿司作りの上手な入居者から酢の混ぜ方を教えてもらうなど、共に過ごし支えあう関係を築いている。職員が肩に手を当てていると「肩をもんであげようか」と、もんでくれたり、「いつもありがとう」「お疲れ様でした」など、入居者から励ましやすいたわりの言葉をかけてもらっている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で入居者が何気なく言った言葉を「つぶやきノート」に記入している。また、何が言いたいのか、何がしたいのか思いをよく聞き、どうしたら満足してもらえるのか常に考えて支援している。把握が困難な入居者に対しても選択肢を狭めていき最終的には本人に決めてもらうよう支援している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントは包括的自立支援プログラムのケアチェック表を使用している。計画作成担当者は、入居者一人ひとりのケアチェック表の問題点や課題に対して、本人や家族の訴えや希望を聞いている。具体的な内容や対応するケア項目が細かく書かれており、月1回の会議の時に職員から意見を聞き介護計画を完成させている。本人や家族には、説明し署名をいただいている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは3カ月に1回行い、家族にフェイスシート（家族の希望）を記入していただき、計画作成担当者が確認しカンファレンスで職員と話し合っている。入居者の様子が書かれている気づきノート、提案ノート、申し送りノートなどから入居者の状態の変化がある場合は、随時職員でケアカンファレンスを行ない検討している。介護計画の課題を一つひとつ評価して現状に即した計画を立て直している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況に応じて2カ月に1回理容サービスとしてホームに訪問してもらったり、特別な外出介助の時は介護タクシーの斡旋をするなど相談にのっている。また、併設施設の機能を活かし喫茶店、居酒屋、銭湯などにも職員と一緒に喜んで行くなど柔軟な対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院が毎月2回往診に来ている。家族に往診記録のコピーを渡し、口頭で説明している。また、状況に応じてさまざまな方法で家族に伝達している。職員には申し送りノートに記載し全職員が目を通し共有している。健康診断は各医師に任せている。訪問歯科月1回、口腔ケア月4回歯磨きのチェック、舌磨きなど行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の時、重度化した場合や終末期あり方について「一切しません」と説明をしている。医療が必要になった段階で家族の相談にのり、他の施設の斡旋に協力している。緊急の場合は救急隊引き継ぎ用紙（家族が搬送先、蘇生の意思表示、意思表示をされた方など）の記入に沿って行われるようになっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に言葉かけや対応など日常の中で気づいたことを事例にしながら伝えている。トイレに連れて行きドアを閉め、排尿したらナースコールを押すなど羞恥心への配慮がされている。女性の入居者が入浴した時に下着を手洗いし全体の洗濯物の中に入れ、全部一緒に洗濯されている。いらなくなったメモは法人でまとめて処分している。個人情報保護に対する基本方針を説明し同意書を家族からいただいている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが職員は本人のペースを大切に、好きなように（居室で手芸をしたり、テレビを見たり）過ごせるよう支援している。週1回の生け花やフラワーアレンジメント、併設施設での居酒屋ツアーや音楽療法など、レクリエーションや行事に参加する機会があり、声かけはするが一人ひとりの気持ちを尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望メニューの日(月・水・金)の昼食には献立(入居者の食べたいものを聞く)、買出し(近くのスーパーに職員と一緒に出かける)、調理(切ったりこねたり)、盛り付け(見本を話し合う)、後片付けなどそれぞれの入居者の要望を聞きながら職員と一緒にやっている。入居者の誕生日には本人の希望するメニューを提供し、おやつには手作りケーキでお祝いをしている。土曜日には入居者の手作りおやつをみんなで喜んで食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1週間に2~3回は行っている。入居者の希望に沿っていつでも入れるようお湯が入っている。入浴の時は見守りながらできないところを手助けしている。入浴を拒否される方には何度か声かけをしたり、シャワー浴や清拭、陰部洗浄に変更する。寛いだ気分で入浴ができるように、入浴剤やバラの花びらを浮かべたり、柚子湯や菖蒲湯など季節感も大切にしている。月に1回デイサービスセンターに行き銭湯を満喫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできる範囲で洗濯物をたたんだり、掃除機をかけたり、調理したり、法人内の厨房から食事や電解水を取りに行っている。生花やフラワーアレンジメントなど楽しみながら習い、作品を居間に飾っている。職員は、入居者の話に耳を傾けたり、また、デイサービスセンターなどの運動会に参加した様子や思考調査の情報をもとにしながら活動を引き出す努力を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には入居者の状態に合わせて、毎日散歩に出かけ四季折々を感じている。天候次第で隣接の同法人に出かけ按摩機や平行棒を使用するなど気分転換をしている。ドライブが大好きな入居者はお弁当を持参し鶴舞公園や山崎川の花見に行っている。6月25日水族館に全員で行く予定をしている。近くのスーパーに食材を買いに行く時に本人の欲しいものも一緒に買っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ほとんどの職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。鍵をかけていなかった時期もあるが、入居者が独りで出ていかれることがあり、安全のために職員の希望で門に鍵をかけるようになった。玄関の鍵はかかっていないが門は施錠しており、門の鍵は全職員が持っている。		鍵をかけることの弊害は理解されているので、再度鍵をかけない暮らしの大切さを話し合い、1日の中で短時間から少しずつ時間を延長し、入居者の表情を見ながら鍵をかけない工夫を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画は本部で管理されている。日中の地震や火災、夜中の火災など様々な想定で避難訓練（ミニミニ訓練15分程度）月1回実施している。消火器などの設備点検などは定期的に消防署が行っている。母体の職員の中に地域の消防団員がいる。災害に備えた備品などは母体で管理され、ホームでは防災ずきんを入居者の半分以上を準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の管理栄養士が栄養バランスを考慮して作成している。食事は併設施設と一緒に調理しているが、朝食と1週間に3回（月・水・金）の昼食と誕生会の昼食は入居者の希望を聞きながらホームで調理している。食事の摂取量を記録し、水分補給は1,500～2,000ccを目途に進めている。体重測定は月に1回の頻度で測定されている。外食は月1回喜んで行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は靴の脱ぎ履きがしやすいように長椅子が設置され、入居者が生花を生け和やかな雰囲気が感じられる。廊下には手すりやフットライトが付いている。居間には大きなテーブルや全体を眺められるソファが設置されている。台所は対面式になっており美味しい匂いを嗅いだり会話を楽しみながら調理ができる。壁には入居者が作成されたあじさいとカタツムリの作品が掲示されている。ベランダには植物があり、入居者と一緒に水やりをしている。エレベーターは自由に使用している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口は入居者が選んだ大きなのれんが下がっている。また、居室には使い慣れた馴染みの物タンス、イス、テレビ、時計、クッション、花瓶、爪切り、仏壇など自由に持ち込まれている。入居者の希望で仏壇には彼岸にお花を上げたり、命日にお寺さんに来ていただく方もいる。掃除は1週間に1回職員と一緒にしている。各部屋にはナースコールが設置してある。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。